

令和8年度 英語科 シラバス

1 教科の目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

2 三年間の指導計画の概要 ※第1・2学年は Here We Go!、第3学年は New Horizon を使用

月	第1学年	第2学年	第3学年
4	be 動詞・一般動詞・can	過去形, 接続詞 when, SVC	受け身
5	be 動詞・一般動詞・can の疑問文・否定文	動名詞, 不定詞 (名詞的用法) 接続詞 that	現在完了形 (経験用法) SV00、動詞+人+that
6	疑問詞 what, who, how 疑問詞 what	be going to, 助動詞 will 接続詞 if, there is/are~.	現在完了形 (完了用法) 現在完了形 (継続用法)
7	動名詞 I want to...	SV00, 不定詞 (形容詞的用法)	現在完了進行形 It is...for...to~
9	This / That is ~ 疑問詞 who	have to, 助動詞 must	want + (人など) + to~
10	疑問詞 whose, where, when 命令文	It is... (for...) to~ 不定詞 (副詞的用法)	let[help] + (人など) + 動詞の原形
11	三人称単数現在形	接続詞 because 比較表現	間接疑問文 現在分詞
12	疑問詞 How	want + (人など) + to~	過去分詞
1	動詞の過去形	SVOC	接触節
2	現在進行形	受け身	関係代名詞 who, that, which
3	過去進行形	既習事項の総復習	仮定法 既習事項の総復習

3 授業に向けて

(1) 少人数授業について

英語科では少人数授業を実施しています。年度当初は各学年A組とB組を合同クラスとし、C組を単独クラスとします(この合同・単独クラスは学期ごとに変更します)。合同の2クラスを3つの小集団に展開し、単独の1クラスを2つの小集団に展開します。

(2) 外国語指導助手 (ALT) について

本校には外国語指導助手 (ALT) が毎月来校します (1～2週間程度)。ALT が来校している週は、一層のコミュニケーション活動を実践できるように授業を工夫しています。

(3) 情報教育機器 (ICT) の活用について

本校では全ての教室に電子黒板機能付きテレビが設置されており、教員が管理している教室用タブレットパソコンに内蔵されたデジタル教科書をほぼ毎回の授業で活用しています。前を向いて授業に臨む時間を増やしてさらに集中力を高めること、視覚的に情報を得る機会を増やしてさらに理解を促進することを目的としています。

4 家庭学習の方法

主に「復習」を勧めます。学習を終えた教科書の小单元について、新出単語や題材文(本文)を音読したり、ノートに書いて覚えたりすることや、教材費で購入していただくワークブックを解いて、答え合わせすることを指導しています。また、これらは宿題や定期考査時の提出物として取り組むように求めることもあるため、日頃の取り組みが大切です。

5 評価の観点と項目例

(1) 知識・技能

外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを正しく理解し、実際のコミュニケーションで活用できているかどうかを定期考査、提出物、ワークシート、小テスト、パフォーマンステスト(音読、スピーチ、インタビュー等)などで評価します。

(2) 思考・判断・表現

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりできているかどうかを定期考査、提出物、ワークシート、小テスト、パフォーマンステスト(音読、スピーチ、インタビュー等)などで評価します。

(3) 主体的に学習に取り組む態度

知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど、粘り強く学習に取り組む姿勢や、自らの学習を調整しながら学ぼうとしているかどうか、外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度が見られるかどうかを授業中の観察、提出物、ワークシート、パフォーマンステスト(音読、スピーチ、インタビュー等)などで評価します。